

# まちだユニバーサル社会推進計画 (第3次町田市福祉のまちづくり推進計画) 2022年度推進事業自己評価結果

以下、資料の見方です。

事業名称

《推進分野1》

**1 【重点事業】バリアフリー基本構想の進行管理事業**  
担当課：交通事業推進課（ユニバ計画 P.122）

**1-1 2022年度実施目標**  
・特定事業計画の進行管理

**1-2 推進の取組内容**  
・必要に応じて、バリアフリー整備等行う予定のある施設所管課と連携を図り、助言したほか、当事者参加の仕組みについて関係部署と検討を行いました。  
・特定事業計画の進捗率は72.8%でした。

**1-3 評価項目**  
(1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	-	バリアフリー基本構想及び特定事業計画の内容に変更がなかったためです。
協働	○	各特定事業者に対して進捗確認をし、内容につき聴取を行いました。
庁内連携	○	特定事業に市の関連施設や道路などが含まれているため、必要に応じて関係部署に直接内容を聴取しながら進めました。
広報・PR	-	基本構想や特定事業の内容は、ホームページ上の該当ページできるようになっています。

(2) 実施にあたり工夫したこと、成果  
・特定事業の進捗確認をする際に前回の調査時点から内容が変わっているものがないかチェックを行い、変更が多くありそうな地域については次回改定に見直し項目の一つとして検討することとしました。

**A**

- 【意見聴取】障がい者等の市民（当事者）の意見を聞き、事業を実施しましたか。
- 【協働】市民や事業者と協働して事業を実施しましたか。
- 【庁内連携】関係する課や関連する事業と連携しながら事業を実施しましたか。
- 【広報・PR】広報やホームページ等により市民に事業の実施状況や必要な情報を公表・周知しましたか。

**B**

- 【◎】意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。
- 【○】意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた。  
意見聴取を実施する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した。
- 【△】意見聴取を実施する予定はなかったが、意見徴集の機会を得た（自ら働きかけはしていない）。
- 【-】意見聴取を実施しなかった。

\*それぞれ、「意見聴取を実施する」のところを、「事業者や団体と協働する」「庁内各課と連携する」「広報・PRを行う」と読み替える。

第2次計画における各事業の進捗状況と結果（成果）、課題等は計画書「まちだユニバーサル社会推進計画」の76ページから87ページをご確認ください。

# 1 【重点事業】 バリアフリー基本構想の進行管理事業

担当課：交通事業推進課（ユニバ計画 P.122）

## 1. 2022 年度実施目標

- ・ 特定事業計画の進行管理

## 2. 推進の取組内容

- ・ 必要に応じて、バリアフリー整備等行う予定のある施設所管課と連携を図り、助言したほか、当事者参加の仕組みについて関係部署と検討を行いました。
- ・ 特定事業計画の進捗率は 72.8%でした。

## 3. 評価項目

### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	バリアフリー基本構想及び特定事業計画の内容に変更がなかったためです。
協働	○	各特定事業者に対して進捗確認をし、内容につき聴取を行いました。
庁内連携	○	特定事業に市の関連施設や道路などが含まれているため、必要に応じて関係部署に直接内容を聴取しながら進めました。
広報・PR	－	基本構想や特定事業の内容は、ホームページ上の該当ページから確認できるようになっています。

### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 特定事業の進捗確認をする際に前回の調査時点から内容が変わっているものがないかチェックを行い、変更が多くありそうな地域については次回改定に見直し項目の一つとして検討することとしました。

## 2 福祉のまちづくり総合推進条例・適合証制度普及啓発事業

担当課：福祉総務課、土地利用調整課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 条例及び適合証制度の周知
- ・ 検討結果に基づく普及・啓発の実施

### 2. 推進の取組内容

- ・ 規則改正による整備基準等マニュアルの一部改訂を行いました。また、福祉のまちづくり総合推進条例についての取組や内容について市民向けに伝えられるよう啓発チラシを作成しました。（福祉総務課）
- ・ 事業者向けに適合証の案内が入った窓口資料の配布を開始しました。（土地利用調整課）



▲福祉のまちづくり総合推進条例啓発チラシ



▲福まち条例事前協議案内資料

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）を策定するに当たり、市民意見募集の中で福祉のまちづくりに関するご意見をいただきました。（福祉総務課）
	-	当課における担当業務ではないためです。（土地利用調整課）
協働	-	協働には至りませんでした。まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）策定の中でいただいた福祉のまちづくりに関する市民意見を参考に普及啓発の見直しを行いました。（福祉総務課） 当課における担当業務ではないためです。（土地利用調整課）
庁内連携	○	・規則改正によるマニュアルの一部改訂において、福祉のまちづくり条例事務担当課に合議を諮りました。（福祉総務課） ・土地利用調整課と福祉総務課で普及啓発に関し連携し進めました。（土地利用調整課）
広報・PR	◎	・福祉のまちづくり総合推進条例を市民向けに啓発するためのチラシを新規で作成し、窓口等で配布しました。（福祉総務課） ・これまでウェブサイトでの周知にとどまっていたが、2022年度より事業者に向けて、適合証の案内が入った資料の配布を開始しました。（土地利用調整課）

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 規則改正による整備基準等マニュアルの一部改訂を行ったほか、今年度初めて福祉のまちづくり総合推進条例を市民向けに説明、啓発するためのチラシを作成しました。
- ・ これまでより適合証の存在を周知する機会が増えました。

### 3 市の新築建築物のユニバーサルデザインによる整備事業

担当課：当該施設の管理課（児童青少年課）、福祉総務課、土地利用調整課、  
営繕課（ユニバ計画 P.122）

#### 1. 2022 年度実施目標

- ・各新築施設の整備（継続）
- 【子どもクラブの整備事業】小山田子どもクラブの整備
- ・多様な方々が建設検討に参加できる仕組みづくりの検討及び実施

#### 2. 推進の取組内容

- ・【子どもクラブの整備事業】事業対象者へ、館内設備（遊具等）の希望等についての意見募集を行うとともに、施設整備の設計にあたっては、福祉のまちづくり総合推進条例に基づき進めました。（2022 年度は小山田子どもクラブ）（児童青少年課）
- ・必要に応じて、バリアフリー整備等行う予定のある施設所管課と連携を図り、助言したほか、当事者参加の仕組みについて関係部署と検討を行いました。（福祉総務課）
- ・審査部門のため、施設整備は行っていません。（土地利用調整課）

#### 3. 評価項目

##### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者参加の仕組みについて関係部署と検討段階であり、意見聴取の段階まで至りませんでした。（福祉総務課）</li> <li>・事業対象者へは、館内設備（遊具等）の希望等についての意見募集を行っていますが、整備の仕様については、福祉のまちづくり総合推進条例に基づき進めているため、ユニバーサルデザインに特化した事業対象者への意見収集は行っていません。（児童青少年課）</li> <li>・審査担当部署のためです。（土地利用調整課）</li> </ul>
協働	－	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者参加の仕組みについて関係部署と検討段階であり、市民や事業者との協働まで至りませんでした。（福祉総務課）</li> <li>・事業対象者へは、館内設備（遊具等）の希望等についての意見募集を行っているため、ユニバーサルデザインに特化した意見聴取・協働は実施していません。（児童青少年課）</li> <li>・審査担当部署のためです。（土地利用調整課）</li> </ul>
庁内連携	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、バリアフリー整備等行う予定のある施設所管課と連携を図り、望ましい整備に向けた助言をしました。（福祉総務課）</li> <li>・計画にあたり営繕課と十分に連携するとともに、町田市福祉のまちづくり総合推進条例に基づき事業を進めています。（児童青少年課）</li> </ul>
	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査を行う際は望ましい整備を行うように働きかけています。（土地利用調整課）</li> </ul>

《推進分野 1》

広報・PR	-	<ul style="list-style-type: none"><li>・当事者参加の仕組みについて関係部署と検討段階であり、広報・PRの段階に至りませんでした。(福祉総務課)</li><li>・ユニバーサルデザインに特化した広報・PRは行っていません。(児童青少年課)</li><li>・審査担当部署のためです。(土地利用調整課)</li></ul>
-------	---	--

(2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・福祉のまちづくり総合推進条例関係課と連絡会を行い、関係課の意見を伺いながら当事者参加についての仕組みについて検討を行いました。
- ・意見募集を行うためにワークショップを行った際に、子どもの扱いに慣れていない職員だけで実施するのではなく、ファシリテーターとして児童厚生員の方に協力していただきました。

## 4 市の既存建築物のバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進

担当課：福祉総務課、営繕課、土地利用調整課、施設課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・各改修施設の整備（継続）、多様な方々が建設検討に参加できる仕組みづくりの検討及び実施。
- ・各改修施設の整備。  
→【整備事業】町田第一小学校
- ・学級増による増築工事に伴う既存校舎の改修であり、法令上必要な対応を行います。

### 2. 推進の取組内容

- ・必要に応じて、バリアフリー、ユニバーサルデザイン整備に関連する補助金について関係部署へ情報提供を行い、整備に関する助言等を行いました。（福祉総務課）
- ・審査部門のため、施設整備は行っていません。（土地利用調整課）
- ・法律上必要な対応を土地利用調整課、建築開発審査課と協議し対応しました。（施設課）

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	△	・各施設担当課が受けた施設整備に関する市民のご意見を伺う機会はありませんでしたが、こちらから働きかける機会を設けることができませんでした。（福祉総務課）
	－	・審査担当部署のためです。（土地利用調整課） ・学級増による増築工事に伴う既存校舎の改修であり、法令上必要な対応を行いました。（施設課）
協働	－	・既存施設のバリアフリー整備について、市民や事業者と協働して改善する機会を設けることができませんでした。（福祉総務課） ・審査担当部署のためです。（土地利用調整課） ・学級増による増築工事に伴う既存校舎の改修であり、法令上必要な対応を行いました。（施設課）
庁内連携	○	・必要に応じて、バリアフリー整備に関連する補助金について関係部署へ情報提供を行いました。（福祉総務課） ・工事担当の営繕課と連携しながら事業を実施しました。また、増築棟の建設位置が既存の学童保育施設に近接し学童保育事業への配慮を要することから、児童青少年課とも調整を図り事業を進めました。（施設課）

《推進分野 1》

庁内連携	△	・事前協議対象となる改修においては、望ましい整備を行うように働きかけました。(土地利用調整課)
広報・PR	－	・既存施設におけるバリアフリー整備について、庁内関係部署への情報提供のみに留まり、全体への広報・PRの段階に至りませんでした。(福祉総務課) ・審査担当部署のためです。(土地利用調整課) ・事業の目的が学級が増えることに対応することだったためです。(施設課)

(2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・既存施設のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備に関連する補助金について関係部署へ情報提供を行い、公共施設所管課に車椅子利用者対応トイレ内の介助用大型ベッドの設置を検討いただきました。
- ・審査部門のため、施設整備は行っていません。
- ・庁内各課及び学校と調整を図り、安全に配慮しながら計画どおり工事を完了しました。

## 5 バリアフリー化整備資金に係る利子助成事業

担当課：産業政策課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・制度の周知、申込受付

### 2. 推進の取組内容

- ・窓口や金融機関を通して、事業の周知に取り組みました。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	窓口に来庁された方から適宜意見を伺いながら、事業の周知を図りました。
協働	○	金融機関等と協働して周知を行いました。
庁内連携	○	関連する事業に係る変更の有無など、都度情報を共有するなど連携を図りました。
広報・PR	○	様々な機会を通して、本事業の周知・PRを行いました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・他の融資制度のメニューとあわせて紹介することで、多くの方に周知することができました。



## 6 住宅バリアフリー化改修工事助成事業

担当課：住宅課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 事業の継続

### 2. 推進の取組内容

- ・ 予定どおり助成を実施し、予算上限まで受け付けました。
- ・ 申請書負担の軽減を意図して手続きの見直しを行い、事務を簡素化しました。
- ・ 手続きの簡素化を踏まえホームページを見やすく再整備しました。
- ・ 助成実績 20 件です。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	介護保険や障がい者支援給付制度を使えない者を対象とした助成制度であり、助成内容もバリアフリー化工事全般を網羅的に対象としているためです。
協働	－	助成制度のため、協働すべき主体が存在しません。
庁内連携	○	助成にあたって、介護保険課、障がい福祉課に照会の上適格を確認し、他課の制度が使える場合は、そちらを案内しています。（介護保険や障がい者支援給付制度のほうが、申請者の自己負担が少ない）
広報・PR	○	助成開始について広報およびホームページで十分に周知しました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 申請は先着順とし、窓口混雑による混乱がないよう、円滑な受付に努めました。

## 7 住宅改修アドバイザー派遣制度

担当課：介護保険課、障がい福祉課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・事業の継続

### 2. 推進の取組内容

- ・介護保険の住宅改修や設備改修を行う方からの依頼に基づき、住宅改修の施工に関する助言及び指導を行うアドバイザーを無料で派遣しました（2022 年度 183 件）。（介護保険課）
- ・刊行物やホームページ、ケアマネジャー向けの研修等で、制度の周知を行いました。（介護保険課）
- ・住宅改修を行う方からの依頼に基づき、住宅改修の施工に関する助言及び指導を行うアドバイザーを無料で派遣しました（2022 年度 12 件）。（障がい福祉課）
- ・刊行物やホームページで、制度の周知を行いました。（障がい福祉課）



▲元気に安心して生活するために住宅改修・福祉用具介護保険を活用しよう！

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーが訪問した際、その場で制度利用者（市民）に意見を伺いました。また、利用者とともにアドバイザーから助言を受けているケアマネジャーに対してアンケート調査を行いました。（介護保険課）</li> <li>・アドバイザーに意見を伺ったり、利用者と関係が密接な障がい者支援センター職員から聞き取りを行いました。（障がい福祉課）</li> </ul>
協働	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援センター、市内のケアマネジャー等と協働し、市民（当事者）への制度の説明、利用拡大を図りました。（介護保険課）</li> <li>・障がい者支援センターと協働し、市民（当事者）への制度の説明、利用拡大を図りました。（障がい福祉課）</li> </ul>
庁内連携	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい福祉課においても障害のある方を対象に本事業を行っているため、住宅改修アドバイザー会議や住宅改修研修会を両課で連携し、実施しています。（介護保険課）</li> <li>・介護保険課においても高齢者を対象に本事業を行っているため、住宅改修アドバイザー会議や住宅改修研修会を両課で連携し、実施しています。（障がい福祉課）</li> </ul>
広報・PR	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや刊行物で市民に対して周知を図っています。また、ケアマネジャーに向けて、研修会や手引き等で本制度の周知を図っています。（介護保険課）</li> <li>・ホームページや刊行物で市民に対して周知を図っています。（障がい福祉課）</li> </ul>

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ケアマネジャーに向けた研修の中で、制度の周知や、利用を推奨する事例の紹介などを行いました。研修後のアンケートでは、制度を知ることができたという意見や、今後積極的に利用したいという意見が得られました。
- ・障がい者支援センターと協働し、市民の方へ周知を行っています。障がい特性に合わせた適切な利用ができるよう心掛けています。

## 8 共同配車センターの運営補助事業

担当課：福祉総務課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・福祉輸送サービスの周知及び支援。

### 2. 推進の取組内容

- ・福祉輸送サービスの取組を市ホームページに掲載しているほか、協定に基づき、災害時における避難行動要支援者の避難輸送が円滑に行えるよう、2022 年 10 月に防災訓練（輸送訓練）を実施しました。
- ・また、町田市社会福祉協議会、配車事業を行う NPO 法人及びタクシー事業者による定期的な連絡会を行い、運営上の課題や必要な情報を共有しています。



▲共同配車センター案内

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	事業実施主体である町田市社会福祉協議会が利用者アンケートを行い、利用者の意見を伺いました。
協働	○	事業実施主体である町田市社会福祉協議会、配車事業を行う NPO 法人及びタクシー事業者による定期的な連絡会（主催は社会福祉協議会）に参加し、運営上の課題や必要な情報を共有しています。（2022 年度は 2 回実施）
庁内連携	◎	配車事業を行っている障がい福祉サービス関係事業者（NPO 法人）の所管である障がい福祉課へ月ごとの報告を行い、情報を共有しています。また、協定における避難行動要支援者の避難輸送を円滑に行なうための避難輸送訓練では、障がい福祉課やいきいき総務課と協力・連携して実施しました。
広報・PR	○	市及び市社会福祉協議会のホームページで継続して PR しています。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・2021 年からの協定に基づき、災害時における避難行動要支援者の避難輸送が円滑に行えるよう、2022 年 10 月に避難輸送訓練を行いました。また、利用者アンケートを行い、利用者の意見をもとに課題等を共有しました。

## 9 地域コミュニティバスの運行補助事業

担当課：交通事業推進課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 既存 4 路線の運行継続、新規路線の検討

### 2. 推進の取組内容

- ・ 地域コミュニティバスについては、運行主体である三者（地域協議会・町田市・運行事業者）で現在の状況を共有し、ダイヤや便数等の運行体系につき協議を行いながら運行を継続しています。
- ・ 移動支援を行っている団体（町内会・自治会や福祉事業所）と対話する機会を儲け、移動に関する助言や情報共有、補助金についての案内等を行いました。
- ・ 平均利用者数（地域コミュニティバス）は、玉ちゃんバスが 4.26 人、かわせみ号が 2.88 人です。
- ・ 町内会・自治会（相原（丸山団地）、鞍掛台地区、鶴川団地地区）と福祉事業者が協働して行う「支え合い交通」の技術的・経済的支援です。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	障がい者のみを対象とした事業ではないためです。
協働	○	定期的に対象地域の町内会・自治会や運行事業者と集まり、事業内容について問題点や改善点等があれば解消できるように取り組んでいます。
庁内連携	△	今後新たに地域住民を対象とした移動支援を行う予定の団体があり、その団体の出席する会議（他課主催）に参加し情報共有等を行いました。
広報・PR	○	各地域コミュニティバスの運行実績や市の支援を受け移動支援を行っている団体の試みの一部については、ホームページで公開しています。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 地域ごとの自主性を尊重し、必要以上に行政が介入するようなことのないよう留意しました。支え合い交通については、各地域の実施主体が自主的に移動の仕組みづくりをし、運行を行っているため、これを継続していけるよう今後も支援していきたいです。

## 10 歩道のバリアフリー改善整備（歩道整備）

担当課：道路整備課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 工事

### 2. 推進の取組内容

- ・ 鶴川駅北口広場整備工事において、歩道整備工事を実施しました。
- ・ 忠生 33 号線において、歩道拡幅に必要な擁壁工事を実施しました。
- ・ 忠生 630 号線歩道整備に向けた擁壁工事を実施しました。
- ・ 忠生 732 号線（尾根緑道）歩道整備工事を実施しました。
- ・ 町田 623 号線において、歩道拡幅工事を実施しました。
- ・ 工事の実施、2022 年度分工事完了です。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	◎	鶴川駅北口広場整備について事業説明会等で意見収集を実施しました。
協働	○	鶴川駅北口広場整備について、関連事業者と協働して事業を進めています。
庁内連携	○	鶴川駅北口広場整備について、関連各課と連携して事業を進めています。
広報・PR	◎	鶴川駅北口広場整備のイメージパースを作成し、駅前に掲示したことやホームページに掲載しました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 鶴川駅北口広場の工事実施にあたり、市民（道路利用者）に向けて、完成後に道路がどのように整備されるかわかるように、完成イメージパースを設置し工事の PR を図りました。

## 11 無電柱化推進事業

担当課：道路整備課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・町田 835 号線、町田 37 号線の設計を実施。
- ・町田 623 号線の電線共同溝及び道路改良工事を実施。

### 2. 推進の取組内容

- ・町田 835 号線：設計完了、2023 年度の工事発注に向けた詳細設計を実施しました。
- ・町田 37 号線：設計完了、予備設計を実施しました。
- ・町田 623 号線の電線共同溝工事を実施しました。（2022 年度分工事完了。）

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	町田 835 号線の無電柱化について、商店会等に意見収集を実施しました。
協働	-	事業の実施にあたり、市民や事業者と協働して行う必要がないためです。
庁内連携	○	庁内各課で連携し、計画どおりに実行できました。
広報・PR	-	過年度に町田 835 号線について、ワークショップ等を通じて、地元住民や通りを理利用する一般利用者などから意見収集を行っていることや、まちづくりに関する学識関係者の先生と歩行空間の確保。道路空間について意見交換し、より良い歩行空間の PR を推進しました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・町田 835 号線について商店会と定期的に会議を行い、無電柱化整備について意見交換を行いました。

## 12 歩道舗装補修事業

担当課：道路維持課（ユニバ計画 P.122）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・工事の実施（歩道舗装補修事業）

### 2. 推進の取組内容

- ・町内会経由やまちピカ町田君による情報提供を元に、通行に支障のある根上を把握し、何度も同じ場所を工事しないよう、他部署と連携して、根上の解消に努めました。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	町内会から4回意見聴取を行い、通行上支障となる箇所について補修の計画を立てました。
協働	○	開発行為やインフラ関係工事が行われる場合、事業者にご協力いただきながら歩道の舗装の補修を行いました。
庁内連携	○	庁内各課と連携し、計画どおりに実行中です。
広報・PR	-	道路管理課が、道路部の維持管理部門の対外窓口として、補修に関するPRを行っています。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ライフライン関係の工事はかなりの頻度で有り、舗装したばかりの所が掘削されることの無いよう、他部署・他企業との調整をしっかりと行ったことにより、直接市が補修することがほぼありませんでした。

## 13 公園等における市民活動団体等の育成事業

担当課：公園緑地課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 公益的活動団体の募集・支援の実施 花壇コンクールの開催 緑地保全活動に対する支援

### 2. 推進の取組内容

- ・ 公益的活動団体登録手続等の広報まちだ掲載、ホームページ掲載による募集の実施や緑地保全活動に対する消耗品・原材料・燃料の支給等の支援、ボランティアへの園路整備や除草等の技術支援、花壇コンクールの開催等を通じて、誰もが市民活動に気軽に参加し活動できる環境を整備しました。
- ・ また、公益的活動、花壇コンクール登録・参加等の手続の電子化の準備といった若年層も参加しやすい環境整備を進めました。

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	◎	公益的活動では、市民の要望に基づき、消耗品・原材料・燃料の支給、市の機器を使用した標高測定等の活動支援を行いました。
協働	○	公益的活動については、現登録民間事業者（デンカ株式会社）の活動報告をホームページにて紹介し、民間事業者の公益的活動登録促進を行いました。
庁内連携	○	公益的活動・花壇コンクールとともに団体構成員の高齢化が進んでおり、事業継続のためには若年世代の参加促進を図る必要があります。若年世代が気軽に参加できるよう経営改革室・デジタル戦略室の行政手続のオンライン化の仕組みに参加し、登録・参加手続の電子化の仕組み作りを進めました。
広報・PR	◎	公益的活動については、広報まちだで新規登録団体募集記事を掲載したほか、民間事業者の活動状況報告を掲載しました。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ ボランティア団体の活動を支援することで活性化させ、公園緑地等の施設についてのご意見や要望を多くいただくことで、全ての人々が安心して公園緑地等が利用できる施設整備に反映すべき課題を把握することができました。



## 14 自転車等駐車場の整備事業

担当課：道路管理課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 自転車等駐車場の整備促進

### 2. 推進の取組内容

- ・ 駐輪場のキャンセル待ちに対応するために、南町田グランベリーパーク駅に 2023 年 4 月 1 日に駐輪場（南町田グランベリーパーク駅東自転車駐車場）をオープンさせるために調整を行いました。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	-	駐輪場の管理・運営は協定に基づき公益財団法人 自転車駐車場整備センターが行っているため、当課は意見聴取行っていません。
協働	○	駐輪場の管理・運営は協定に基づき公益財団法人 自転車駐車場整備センターと駐輪場需要の影響について協議・調整を行いました。
庁内連携	△	区画整理等がある場合には、駐輪需要への影響を分析するため、関係部署等との連絡調整を行いました。
広報・PR	○	・ 駐輪場の整備について、広報やホームページで周知しています。 ・ 町田駅周辺駐輪場マップを作成し、配布しています。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 管理運営を行っている（公財）自転車駐車場整備センターと定期的に打ち合わせを行うことで現状を確認しました。その結果、当初通りに 2023 年 4 月 1 日に南町田グランベリーパーク駅に新規駐輪場をオープンさせることができました。

## 15 公共トイレ計画推進事業

担当課：環境保全課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・公共トイレ情報を市のホームページ等に掲載

### 2. 推進の取組内容

- ・町田市ホームページでの情報掲示のほか、公共トイレマップを多くの場所で配布しました。



▲町田シティマップナビタ

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	市のホームページへの情報掲示のほか、公共トイレマップを多くの場所で配布しているため、意見聴取を実施する予定はありません。
協働	○	公共トイレ協力店として、民間の店舗事業者の協力により、71店舗（新型コロナウイルスの影響による開放休止店舗含む。）のトイレを市民に開放していただきました。
庁内連携	○	道路管理課の駐輪場マップ、サイクリングコース、環境共生課の公共トイレマップを統合した「町田市シティマップナビタ」を作成し、配布しました。
広報・PR	○	町田市ホームページでの情報掲示のほか、公共トイレマップを多くの場所で配布しました。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・公共トイレマップについて、限られた紙面の中でレイアウトを調整し、公共トイレ協力店・寺社の一覧を掲載しました。公共トイレマップ（町田市シティマップナビタ）は広告事業者と協働し、無償で作成します。

# 16 【重点事業】市からの情報発信のバリアフリー化推進事業

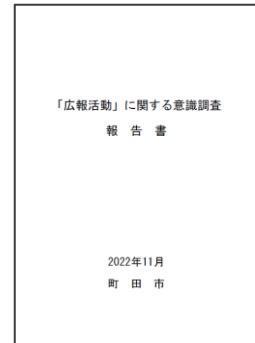
担当課：福祉総務課、広報課（ユニバ計画 P.32）

## 1. 2022 年度実施目標

- ・ルールに基づく情報発信の周知徹底、情報ユニバーサルデザイン対応状況の改善
- ・広報活動（広報紙、HP 等）の質の向上

## 2. 推進の取組内容

- ・新規採用職員研修において、障がい者や高齢者等に配慮した印刷物の作成方法など業務上のルールを説明し、職員の意識醸成を図ったほか、「情報バリアフリーハンドブック」を市ホームページで公開、PR を行っています。（福祉総務課）
- ・「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」を策定するにあたり、市民意見募集の案内や計画概要版の点訳資料を作成したほか、市ホームページへ計画全編の音声読み上げテキストを掲載しました。（福祉総務課）
- ・2022 年 9 月から福祉総務課公式 Twitter を開始し、幅広い情報発信を進めています。（福祉総務課）
- ・視覚障がい者を対象に、「広報まちだ」を CD に吹き込む「声の広報（デイジー版）」及び「点字版広報まちだ」を発行しています。また、2017 年 11 月 1 日号から、聴覚障がい者を対象に、広報まちだの記事への問い合わせを FAX で受け付ける旨を記載しています。（広報課）
- ・ホームページのアクセシビリティについては、各課が作成する新規のコンテンツをチェックしてから公開するとともに、庁内向けの研修で啓発・周知を行っています。さらに毎年 1 回試験を実施しており、高齢者や障がい者等、身体の機能に制限がある人でも情報にアクセスすることができるよう改善を行っています。（広報課）
- ・新聞を取っていない方にも広報紙が届くよう、拠点配布や個人配布などがある旨を周知するとともに、高齢者等が市の情報入手しやすい環境の改善に努めています。（広報課）
- ・市内で行われるイベントに出店し、情報ツールを紹介・周知しています。（広報課）



▲「広報活動」に関する意識調査報告書  
(2022 年 11 月)

## 3. 評価項目

### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」を策定するにあたり、協議会委員から視覚障がい者への情報保障についての意見を伺いました。（福祉総務課）</li> <li>・ウェブアクセシビリティに関するアンケートフォームを作成し、広く意見を募集しました。（広報課）</li> <li>・「広報活動」に関する意識調査を実施し、広く意見を募集しました。（広報課）</li> </ul>

《推進分野 2》

協働	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」を策定するにあたり、情報保障を行うため、点訳ボランティア団体と連絡を取り、市民意見募集の案内や計画概要版の点訳資料を作成したほか、市ホームページへ計画全編の音声読み上げテキストを掲載しました。（福祉総務課）</li> </ul>
協働	－	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度においては、協働する事業がなかったためです。（広報課）</li> </ul>
庁内連携	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員課が主催する新規採用職員研修に参加し、障がい者や高齢者等に配慮した印刷物の作成方法など業務上のルールを説明し、職員の意識醸成を図りました。（福祉総務課）</li> <li>・「広報まちだ」の作成について、特にメインニュースと特集面については、ユニバーサルデザイン等を考慮しながら、関連各課と連携を図り進めることができました。（広報課）</li> </ul>
広報・PR	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民向けに「情報バリアフリーハンドブック」を市ホームページで周知、PRしているほか、福祉総務課公式 Twitter では ALT 機能（※）を活用し、情報発信を行っています。（福祉総務課）</li> <li>※視覚障がい者等画像が見えない方に画像へ説明を追記できる機能。</li> <li>・ホームページについては、ウェブアクセシビリティの試験結果を毎年公表しています。（広報課）</li> <li>・11月15日号の「広報まちだ」で市の情報ツールを紹介する特集を掲載するとともに関連講座を2回実施しました。また、市内で開催されたイベントに出店し情報ツールを紹介・周知しました。（広報課）</li> </ul>

（2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・計画表紙に音声コードを掲載し、市ホームページに掲載した「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」全編の音声読み上げ版へ誘導することにより、全文を読むことができるほか、概要版の点訳版も作成し、情報保障に配慮するよう心がけました。
- ・ウェブアクセシビリティの研修に参加しています。
- ・健常者や元気な方に向けた記事だけでなく、高齢者や障がい者など、情報の入手が難しい方に向けた特集を企画しました。
- ・色遣いに気を付けるようにしています。

## 17 手話通訳者・要約筆記者の派遣事業

担当課：障がい福祉課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・手話通訳者、要約筆記者の派遣の継続

### 2. 推進の取組内容

- ・手話通訳者、要約筆記者の派遣の継続

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	手話通訳者の派遣を利用している聴覚障がい者との懇談会を開催し、頂いた意見において対応可能なものについて派遣事業に反映しました。
協働	◎	NHK と共催でイベントを実施し、147 名が来場され、町田市障がい理解促進啓発に取組みました。
庁内連携	○	生活援護課、子ども家庭支援センター、広聴課へ事業案内を提供しました。また、市主催の会議や講演会に手話通訳者・要約筆記者を派遣しています。
広報・PR	○	市HPや広報まちだで手話通訳者・要約筆記者の派遣制度について周知を行いました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・各事業者や依頼者には差別解消条例の主旨や内容を伝え、各事業者には情報補償の義務があることを理解していただけるよう務めています。情報補償は必ずしも手話通訳者の派遣だけではなく、内容や状況によって筆談や UD トークといったツールを用いて情報を伝えていくことが可能であることを伝えていきます。

## 18 「高齢者のための暮らしのてびき」作成

担当課：高齢者福祉課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・ 高齢者のための暮らしのてびき発行継続

### 2. 推進の取組内容

- ・ 高齢者向けの情報を掲載した「高齢者のための暮らしのてびき」を 3 年に 1 度発行しました。次回発行は 2024 年 4 月です。
- ・ 制度変更に対応した正誤表の作成をしました。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	2022 年度は発行年度ではないため、意見聴取は実施しませんでした。
協働	－	2022 年度は発行年度ではないためです。
庁内連携	○	2021 年度発行の現冊子の掲載内容について、制度変更等がある可能性を考慮し、発行後 2 年経過に併せて正誤表の作成を行っています。冊子掲載課に照会を行い、正誤表作成内容の調整を行いました。
広報・PR	－	3 年に 1 度の発行時に広報等を行っています。町田市ホームページにおいて、通年で閲覧できる状態です。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・ 3 年に 1 度の発行のため、2022 年度には、2021 年度に発行した冊子の掲載内容について、制度改正や組織改正を反映させた訂正版を作成しました。

# 19 「障がい者サービスガイドブック」の作成

担当課：障がい福祉課（ユニバ計画 P.123）

## 1. 2022 年度実施目標

- ・「障がい者サービスガイドブック」の継続発行

## 2. 推進の取組内容

- ・障がいに関する各種相談窓口や制度、市内事業所一覧等を記載した「障がい者サービスガイドブック」を継続して発行し、相談窓口等の周知を図ることで、障がいがある人に必要な情報やサービスが行き届くようにします。
- ・音訳版、点訳版、S Pコード版を作成し、視覚障がいがある人にもガイドブックの情報が届くようにしています。



▲障がい者サービスガイドブック 2022（冊子版）

## 3. 評価項目

### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	△	音訳版及び点訳版の作成にあたり、毎年委託団体から内容に関するご意見をいただいています。また、町田市障がい者施策推進協議会委員からも内容の表記や構成についてご意見をいただきました。
協働	△	ガイドブックに掲載している内容について、毎年企業や関係機関等に内容確認の依頼を行っています。2022年度は新規の他機関における事業の新規掲載はありませんでしたが、引き続き内容の改訂に取り組んでいきます。
庁内連携	○	ガイドブックに掲載している事業は多岐にわたるため、庁内各課にも掲載内容の確認や新規事業の提案を行っています。2022年度版では、新たに2事業を追加掲載しました。
広報・PR	○	広報まちだ 5月15日号にてガイドブック（冊子版）の配布開始をPRし、11月15日号では、点字版・音訳版・S Pコード版の配布開始を周知しました。合わせて、市ホームページでも冊子データ（全体版・分割版）及び音声読み上げソフト対応版のデータをそれぞれ公開しています。

### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・年間 4633 冊を配布し、広く市民に活用されていると感じています。

## 20 「まちだ子育てサイト」による子育て情報の発信

担当課：子ども総務課（ユニバ計画 P.36）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・情報の更新及び配信を継続

### 2. 推進の取組内容

- ・まちだ子育てサイトのトップページにある「目的からさがす」の項目に「イベント・教室」というカテゴリを新設し、イベントの情報を探しやすくしました。
- ・庁内への周知及び掲載の呼び掛けを行うことで、子どもやその保護者向けのイベント情報の充実を図りました。

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	まちだ子育てサイト内で意見を得るアンケート機能を設けていないため、実施していません。サイト内にアンケートフォームを設けることはシステム上の都合により不可能であるため、別の方法ができないか、今後検討していく必要があります。
協働	－	本事業の性質上、事業者や団体と協働する必要性がないため、実施していません。
庁内連携	○	記事を掲載している各課とは、年 3 回の定期的な話し合いの場（運営管理定例会）を持ち、連携しました。また、庁内への周知及び情報掲載の呼び掛けを行うことで、子どもやその保護者に向けた情報の充実を図りました。
広報・PR	○	子どもセンター等の市内施設にて、まちだ子育てサイトのクリアファイルやチラシを配布しました。また、母子健康手帳とともに配布される「母と子の健康バッグ」へまちだ子育てサイトのチラシを封入し、妊婦の方が妊娠期から必要な情報を手に入れられるように周知しました。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・サイトのコンセプトである「見やすく 分かりやすく 検索しやすく」を推進し、より多くの人に伝わるような情報発信となるように文章の表現やサイトの構成を工夫しました。
- ・運営管理定例会を 3 回開催する中で、サイトの関係部署と意見交換や情報共有を行い、発信内容の改善等を図りました。



## 21 「みんなのおでかけマップ」の整備事業

担当課：福祉総務課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・情報の更新・拡充、市民への配布、掲載内容・形態の随時見直し

### 2. 推進の取組内容

- ・「町田市バリアフリーマップ」運営団体（NPO 法人）の協力を得て、2021 年度からリニューアルした PDF 版の「みんなのおでかけマップ」を作成しました。また、オープンデータとして市政情報課へ提供をしているほか、2022 年度で新たに導入した福祉総務課公式 Twitter においても PR を行っています。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	バリアフリーマップ運営補助団体である NPO 法人（障がいのある方等当事者も参加する団体）が実地に赴いたり、現況調査の中でいただいた意見を会議等で聞き取り、マップ作成の参考にしました。
協働	○	障がいのある方等が参加しているバリアフリーマップ会議（「町田市バリアフリーマップ」運営団体主催の会議）に参加し、事業の方向性や内容についてお互いに協議しながら進めました。
庁内連携	○	「みんなのおでかけマップ」作成に当たり、必要となる情報について土地利用調整課と連携して調査したほか、オープンデータとして市政情報課へ提供しました。
広報・PR	○	市ホームページを通じて、おでかけマップの掲載をしたほか、2022 年度で新たに導入した福祉総務課公式 Twitter にて PR を行いました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・PR 方法として、市ホームページに掲載するほか、福祉総務課公式 Twitter を活用してより広い範囲に「みんなのおでかけマップ」の宣伝を行いました。

## 22 町田駅周辺駐輪場マップの作成

担当課：道路管理課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・町田駅周辺駐輪場マップの作成・配布の継続

### 2. 推進の取組内容

- ・安全な道路環境を維持し、歩行者・自転車利用者が安心して通行できるように、駐輪場マップの作成・配布をしました。

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	協議の必要がない事業のためです。
協働	－	市民や団体との協議の必要がない事業のためです。
庁内連携	○	環境自然共生課、交通事業推進課と連携し、内容の充実を図りました。
広報・PR	○	HPに掲載し、PRを行いました。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・町田市内の駅周辺の「放置自転車禁止」注意のポップサインに駐輪場マップを自由に持っていけるように設置しました。

## 23 【重点事業】心のバリアフリー、ユニバーサルデザインの普及啓発事業

担当課：福祉総務課（ユニバ計画 P.39）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・啓発内容の検討及び事業実施

### 2. 推進の取組内容

- ・新規採用職員を対象とした心のバリアフリーを含むユニバーサルデザインのまちづくりに関する研修を行ったほか、中央図書館で「心のバリアフリー」の関連書籍を紹介した特集コーナーを設置しました。
- ・また、「心のバリアフリー」認知度を把握するため、今年度からちよこっとアンケートを実施し、アンケート対象者へ「心のバリアフリー」の認知度調査を行いました。



▲特集コーナー写真

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	今年度から「ちよこっとアンケート」(※)を実施し、アンケート対象者へ「心のバリアフリー」の認知度を伺い、約35%の方が「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答しました。 ※WEBアンケート調査を通じ、市民の皆様のご意見や市民ニーズを聞き取ることを目的として市で実施。
協働	○	社会福祉協議会が実施している福祉教育の内容について意見交換を行い、まちだユニバーサル社会推進計画の推進事業における福祉教育の方針について確認を行いました。
庁内連携	○	職員課と連携し、新規採用職員に向けた心のバリアフリーを含むユニバーサルデザインのまちづくりについて研修を行ったほか、図書館での心のバリアフリーに関する特集コーナーを設置しました。
広報・PR	○	図書館での心のバリアフリーに関する特集コーナーの設置や、ちよこっとアンケートの実施など幅広くPRを行うことにより、市民への意識づけを図りました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・2022年度からはじめて「ちよこっとアンケート」を実施し、経年的に「心のバリアフリー」の用語の認知度を測るようになりました。また、中央図書館の特集コーナーでは積極的に関連資料の選定に関わり、より多くの人々の目に止まるよう工夫しました。

## 24 心のバリアフリーハンドブックの活用事業

担当課：福祉総務課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・市立小学校4年生への配布、市民参加イベント・講演会などでの配布、活用

### 2. 推進の取組内容

- ・市立小学校4年生を対象として「心のバリアフリーハンドブック」を配布したほか、中央図書館の特集コーナー、新規採用職員研修等の場でも配布を行いました。また、市ホームページでもハンドブックの紹介を行っています。



▲心のバリアフリー  
ハンドブック

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	△	ハンドブックを配られた児童の親御さんから問い合わせをいただき、ハンドブックの内容についてのご意見を頂戴する機会がありました。
協働	-	市民や事業者等にハンドブック配布の協力を働きかける機会を設けることができませんでした。
庁内連携	○	教育委員会を通して、市立小学校4年生へ心のバリアフリーハンドブックを配布しました。
広報・PR	◎	市ホームページでの周知や、中央図書館の特集コーナー設置時に配布を行いました。また、新規採用職員研修や福祉実習に来られた学生にも配布し、「心のバリアフリー」について理解促進を図りました。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・新規採用職員研修だけでなく、福祉実習に来られた学生にも「心のバリアフリーハンドブック」を配布し、心のバリアフリーについて啓発を行い、理解促進を図りました。

## 25 市立小・中学校での心のバリアフリー教育の推進

担当課：指導課、教育センター（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・継続して実施していきます。

### 2. 推進の取組内容

- ・特別支援学級設置校においては、通常の学級との交流及び共同学習に取り組みました。（指導課、教育センター）
- ・東京都立町田の丘学園（都立特別支援学校）の副籍交流を実施しました。（指導課、教育センター）
- ・東京都立町田の丘学園（都立特別支援学校）と町田市立小学校2校、中学校1校との交流教育を実施いたしました。（指導課、教育センター）
- ・町田市立小・中学校において、総合的な学習の時間などにおいて福祉について学習をすすめた学校もありました。（指導課、教育センター）

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行しました。
協働	○	事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行しました。
庁内連携	○	庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行しました。
広報・PR	○	広報・PRを行う予定があり、計画どおりに実行しました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・都立特別支援学校との副籍交流や交流教育については、特別支援教育コーディネーター連絡会で情報を発信しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もありましたが、オンラインで学校をつないで実施するなどの工夫もしました。

## 26 交通安全教育の実施

担当課：市民生活安全課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・交通安全教育の実施

### 2. 推進の取組内容

- ・子どもへの交通安全教育として、市立小学校 42 校で自転車教室（交通安全講話、実技、筆記テスト）、市立中学校 7 校でスタントマンを活用した自転車教室を実施しました。
- ・高齢運転者自身の状態や運転レベルを的確に把握し、より安全運転の意識を高めてもらうことを目的として、高齢運転者安全運転教室を実施しました。
- ・特別支援学校において、障がいの度合いに合わせて交通ルールを学べる交通安全教室を実施しました。
- ・全国交通安全運動に合わせて、交通安全啓発キャンペーンや白バイ隊員等による二輪車安全運転教室を実施しました。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	高齢者や介護をしている市民、高齢者の送迎を行っている事業者の従業員等に対し、交通安全に関する疑問等を気軽に聞くことができるミーティングを実施し、ミーティングを通して得た情報を基に市が行う啓発活動に活用しました。
協働	◎	警察署、交通安全協会をはじめとする様々な団体と協働し、交通ルールやマナーの周知や、交通安全グッズの配布などの啓発活動を実施しました。また、市が包括連携協定を締結している保険会社に依頼し、保険の営業先で交通安全に関するチラシを配布しました。
庁内連携	○	子どもセンターや文化振興課等が実施する地域のイベントに参加して、幅広い世代の市民に対し、交通ルールやマナーの啓発、交通安全グッズの配布をしました。また、福祉総務課と連携し、民生委員協力のもと、高齢者が住んでいる約 42,000 世帯を対象に、交通安全に関するチラシを配布しました。
広報・PR	○	広報まちだ、ホームページにおいて、全国交通安全運動や交通安全教室等の周知、参加者の募集などを行いました。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・交通安全啓発やミーティングの参加者に合わせて、内容や手法を変更して実施しました。また、人が集まるイベント等に参加することで、より多くの方に交通ルールやマナーの周知を行うことができました。

# 27 「まちだの福祉」講座運営事業

担当課：生涯学習センター（ユニバ計画 P.123）

## 1. 2022 年度実施目標

- ・生涯学習センターの事業計画に基づき運営

## 2. 推進の取組内容

- ・まちだ市民大学 HATS「まちだの福祉」講座を実施しました。
- ・前期は「安心して町田で暮らせるために」をテーマに全 7 回、後期は「様々な人たちと育む共生社会づくり」をテーマに全 7 回の連続講座を実施し、延べ 251 人が受講しました。



▲「まちだの福祉」講座紹介

## 3. 評価項目

### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	障がい当事者の助言を受けながらプログラムを検討し、各回のテーマに応じて障がいや社会的困難を抱える当事者に講師を依頼しました。終了後は講師と参加者が個別にやりとりし、当事者と支援者のネットワークが広がりました。また、参加者の中にも当事者がおり、グループワーク等で意見聴取の機会がありました。
協働	○	福祉分野に造詣が深い市内の研究者、NPO職員、障がい当事者、修了者からプログラム委員を選任し、助言と協力を得ながらプログラムの検討（会議回数 5 回）と講座の運営にあたりました。修了者が講師主宰のボランティア団体に加入し、福祉の担い手としての活動に繋げることができました。
市内連携	○	各回のテーマに応じて、教育センターや介護保険課の職員に講師を依頼し、講座を実施しました。また、専門性を有する講師の選定にあたっては、障がい福祉課職員から助言を受け、最適な講師を検討しました。
広報・PR	○	市HPや広報まちだ掲載（年 2 回）のほか、募集案内を作成し、市民が手に取れるよう生涯学習センター及び市内各施設で配布しました。

### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・新型コロナウイルス感染対策に配慮しながらも、講義・グループワーク・体験・施設見学（感染拡大防止のためライブ中継による）といった多様な手法を用いて学ぶことができました。また、前期と後期の実施曜日・時間を変えることで、各テーマに応じた年齢層の参加者を呼び込むことができました。

## 28 「障がい者青年学級」運営事業

担当課：生涯学習センター（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・障がいのある青年たちが、当事者同士、あるいは地域住民や学生といった様々な人々と交流し、音楽・スポーツ・演劇・創作などの集団活動を行うことにより「生きる力・働く力」を獲得できるよう目指しています。

### 2. 推進の取組内容

- ・音楽、スポーツ、演劇、創作などの集団活動を通じて、障がい者の方たちに対して、社会参加、学習活動の場を提供しました。
- ・約 150 名の学級生が在籍し、50 名ほどのボランティアスタッフとともに3学級に分かれて月2回、年間16回活動しました。
- ・ボランティアスタッフとの会議を週に1回実施し、活動内容に関する話し合いをしながら実施しました。
- ・近隣大学の授業やボランティアガイダンスに出向くなどして、本事業のPRを行いました。
- ・本事業を可能な限り持続して運営すべく検討の準備を行いました。

### 3. 評価項目

#### (1) プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	○	活動日において学級生間で活動内容を決定するための話し合いの機会を設けています。また、ボランティアスタッフ（市民等）との会議を週に1回実施し、活動内容に関する話し合いをしています。学級生の保護者と懇談する機会も設けています。
協働	○	週に1回のボランティアスタッフとの会議で活動の見通しを話し合ったり、活動を振り返ったりしながら事業を進めました。また、外部団体等からの依頼により、同団体が主催するコンサートの実施にあたり参加協力することで障がいに関する啓発活動を行いました。
庁内連携	○	福祉総務課と連携して、人権パネル展においてボランティアスタッフ募集のポスターを展示することで、障がいに関する啓発活動を行いました。
広報・PR	○	市ホームページや館内掲示物で活動紹介を行うとともに、学級生らが生涯学習センターまつりで活動の成果を発表したことにより本事業を知らない方にもPRを行いました。また、市広報や生涯学習情報誌への掲載、近隣大学の授業に出向くなどして、ボランティアスタッフの募集を行い、本事業のPRを行いました。

#### (2) 実施にあたり工夫したこと、成果

- ・学級活動中に行う班長会などの話し合いで挙げた学級生の要求や、週一で行う担当者会議で出されたボランティアスタッフの意見を、学級運営の工夫に繋げています。



## 29 市職員の心のバリアフリー研修事業

担当課：職員課（ユニバ計画 P.123）

### 1. 2022 年度実施目標

- ・職員研修の実施、アンケート等の実施・検討

### 2. 推進の取組内容

#### （1）新規採用職員研修 ～ユニバーサルデザインのまちづくり～（講師：福祉総務課）

- ・2022年4月5日に実施。対象者は新規採用職員で、参加人数合計55人でした。
- ・内容は、町田市の福祉のまちづくりの取り組み、ユニバーサルデザインとはなど。

#### （2）新規採用職員研修 ～福祉のこころを学ぶ～（講師：障がい福祉課）

- ・2022年4月5日に実施。対象者は新規採用職員で、参加人数は合計47人でした。
- ・内容は、障がいのある方への対応についてなど。

#### （3）障がい者雇用に関する理解促進研修（講師：ハローワーク町田）

- ・2023年2月17日に実施。対象者は各部からの推薦で、参加人数は合計37人でした。
- ・内容：障がい者への差別の禁止・合理的配慮について、職場での対応事例についてなど。

### 3. 評価項目

#### （1）プロセス評価

	実施状況	内容
意見聴取	－	本事業は庁内研修のため、市民意見を得る機会を設けていません。
協働	○	ハローワーク町田と連携しながら「障がい者雇用に関する理解促進研修」を実施しました。また、研修実施結果報告（受講者アンケート）を講師へ送付し、次回に向けての参考としてもらっています。
庁内連携	○	新規採用職員研修において、福祉総務課及び障がい福祉課の職員による研修を実施しました。また、研修実施結果報告（受講者アンケート）を講師へ送付し、次回に向けての参考としてもらっています。
広報・PR	－	本事業は、庁内研修であるため、広報・PRは行っていません。

#### （2）実施にあたり工夫したこと、成果

- ・外部機関（ハローワーク町田）や福祉総務課及び障がい福祉課の職員に登壇していただき、担当者による詳細な説明を聞くことができました。特に新規採用職員研修においては、自身の先輩にあたる職員の講義を聞くことで、内容をより身近に感じてもらうことができました。